

S・M・C

Shizuoka Medical Communication

市民公開講演会

「いつまでも元気であるために ～ 腰痛・肩こり 気になりませんか? ～」

平成29年7月2日、ケアセンター池田の街で作業療法士として活躍されている水上直紀さんを講師に迎え、市民公開講演会を開催しました。前年度の講演会に参加された方たちからの「体力維持のストレッチ運動を教えて欲しい」「転倒予防に何かやりたい」とのご希望により実現しました。

水上さんは元気な声で、ユーモアたっぷりにお話してくださいますので、会場からは時折笑い声が聞こえ、和やかな雰囲気では進みました。

前半では、まず“肩こり”について。ポイントは、いろいろな方向に動く肩甲骨のようです。「肩甲骨を動かす筋肉をストレッチすることで血流が改善されると肩こりは解消できる」とのこと。肩こりにつながる筋肉の名称と位置、そして筋肉それぞれのストレッチの仕方を丁寧にご指導くださいました。

次に、“腰痛”について。なんと、腰痛の約85%は原因が特定できないそうです。無理のない範囲での前置きがあって、足にある六つの大きな筋肉の働きとストレッチの仕方を教えていただきました。そして、「しびれや筋力低下を感じたら病院を受診することが大事です」と話されていました。

後半では、参加者全員が輪になって椅子に腰かけて、体を動かしてみました。実際に動かしてみると、硬くなっている部分の分り、ストレッチすると気持ちがいい……。

質問コーナーでは個人的な質問をされる方もいて、それぞれに悩んでいる様子がうかがえました。

参加者からは、

- ・筋肉の働き、姿勢との関係など基本的なことが理解でき大変参考になった。
- ・家でも資料を見ながら筋肉を意識して身体を動かす事ができそうです。
- ・少しでも続けて、健康で生き生きとした生活を送りたい。

と、前向きな意見や感想が聞かれました。

夏の訪れを感じさせる暑い中での開催となりましたが、有意義な時間を過ごせたことと思います。

(鈴木)



全国模擬患者学研究大会に参加して

平成29年11月23日、LPC主催の第7回全国模擬患者学研究大会に参加しました。LPC（ライフ・プランニング・センター）で長年理事長を務められた日野原重明先生が7月18日に105歳で亡くなられましたので、日野原先生への黙祷から始まりました。

まず、東京医科大学臨床実習での模擬患者の活用についての講演があり、次に、「共立女子大の看護師継続教育における模擬患者の活用と実際」と「LPCでの様々な模擬患者の活動」についての報告がありました。続いて、「ペンシルベニア大学外科における卒後臨床教育での模擬患者利用」「自治医科大学における地域住民と共に模擬患者を養成することについて」「医療者教育に模擬患者を上手に活

用していくために」と題した講演がありました。

どの講演も、模擬患者参加型教育を通してシミュレーションを重ねることが医療者の成長につながる、そのためこれからも模擬患者の活動は益々重要になってくるとの見解でした。あくまでも主人公は学生や医療者であり、模擬患者は指導者ではありません。

模擬患者は一患者としての感覚を忘れずに、リアリティ、素直な反応、医療者を育む気持ち、ともに学びの場をつくる気持ちでいてほしいとのことでした。「模擬患者は教育的ツールであることを自覚することが大切です。」とLPC最高齢の方がお話しされていたのが印象的でした。

(秋本)

死亡告知の場面にSP挑戦！

平成29年9月23日、「死亡確認時の医師の望ましい立ち居振舞い」のロールプレイへSPとして参加しました。このセッションは、第20回 VHJ 機構臨床研修指導医養成講座のプログラムの一つで、ロールプレイを振り返ることで、死亡確認に関する研修医教育に役立てることを目的としています。

場面設定は、転移性肺癌の父の余命は時間単位かもしれないと主治医から告げられていた娘達へ、死亡告知をする場面です。SMCとしても死亡告知は初のテーマ。具体的なイメージを持たないまま本番を迎えてしまいました。

直前打合せの後、聖隷三方原病院の森雅紀先生の講義に続き、皆でお手本ビデオを見てからのロール

プレイ。頼りにしていたビデオは良い例も悪い例もほぼ同じ印象で、結局、打合せとは内容を変え、全編完全アドリブで臨みました。ロールプレイは2回。1回目は短時間で落ち着きましたが、2回目はなかなか受け入れられず、泣き続けてしまいました。でも、さすがに臨床医。しっかり受け止め、真摯な対応で心に届く言葉をかけてくれました。実際の場合では、たとえ告知をされていたとしても「死」は簡単には受け入れられません。遺された者が現実を受け止めるにも、想いを整理するにも、医療人の言動次第で印象が変わってしまいます。コミュニケーションの影響力は大きいと、改めて感じました。

(春日)

SMC研修会

平成29年10月29日、岐阜大学医学部医学教育開発研究センター長の藤崎和彦先生をお招きして研修会を開催し、「Post-CC OSCE の話題」と題してご講義を頂きました。

Post-CC OSCEは、海外では医師国家試験として実施されている国もありますが、日本では2020年度から全ての医学部で実施される予定です。医療面接時鑑別診察は、身体診察のSPと病歴など問診を受けるSPが同席する形で行うことになるようです。

2017年度は全国の医科大学の25%に当たる23大学でトライアルが実施され、臨床推論症例のプレゼンテーションが行われました。今回は、初めに問診SPが医療面接を行い、その後、身体診察SPが診察を受け、必要に応じて問診SPが質問に答える形式でした。つまり、今後は身体診察SPが診察を受



けると同時に、症状の出現から症状の経過また、現在の気持ちや心配ごとなどの質問には、問診SPが傍にいて返事をしていくようになるそうです。両者同席での医療面接は難しいのではないかと感じました。

講義の後、静岡市保健所主催の医療コミュニケーション研修会のシナリオを作成しました。実際にロールプレイを行い、藤崎先生からアドバイスを受けて検討しました。

今回、私が担当するシナリオは、父親が脳梗塞で入院中の娘となる設定です。ロールプレイを行うことで、一人暮らしで頑張り屋の父親が、入院中に認知症状が進行し気力がなくなった現状を、家族は理解することが出来ず、リハビリを頑張ってもらい自宅復帰させたいと、強く思っている娘のイメージ作りができました。

(小澤)



医療コミュニケーション研修会

平成29年10月17日、静岡県立こども病院で医師、看護師を対象としたロールプレイによる研修が行われました。静岡市保健所が希望する施設に対して毎年行っているもので、私たちは模擬患者として、また会の進行役として協力しています。

シナリオは、生後10か月の男児の心臓手術が無事に終了し、母親と祖母がほっとしていたところに「病状が急変した」との知らせが入り、医師と看護師から病状説明を受ける場面です。医療者二名（医師と看護師）と模擬患者二名（母親と祖母）の四名での医療セッションとなりました。このような設定は初めてです。セッションを2回行ないましたが、それぞれの医療者のシナリオの受け止め方が異なったため、医療者がどのような説明をすると、患者側に受け入れられるのか等、とても良い勉強ができた

と思います。百人以上の予想外の参加数となり、会場に入れない方もいらっしゃいました。後ろの方にまで声が届かず、聞きにくい状態となってしまいました。反省点がいろいろありましたが、終了後に主催者側と病院との反省会も行われ、私たちにとっても充実した研修会となりました。（扇）



医学教育セミナーとワークショップに参加して

平成29年10月14日、岡山大で開催された模擬患者大交流大会に参加しました。山形から南九州まで35名のSPが参加し、活動していくうえでの困った点や難しい点について話し合いました。新会員の勧誘は当会でも大きな課題です。また「ロールプレイ後のフィードバックは難しい」と、多数の方から意見が出されました。その後、岡山SP研究会の前田純子氏（日本のSP第一号）がSPの役割について講演されました。そのなかで「心の動きがあって初めてフィードバックできる。SPを演ずるときは自分の心の動きに責任を持つ。」と話された言葉が印象的で、強く心に響きました。

引き続き15日は、ワークショップ「ファシリテーションスキルを磨こう」を特別に見学させていただ

きました。参加者は、全員医療従事者でした。職種別にグループに分かれ、前日に作成したシナリオをもとにロールプレイを行い、交代でファシリテーターを務めます。互いにそのファシリテーションを振り返り、コメントするという内容でした。SPからのファシリテーターへのコメントは、普段は聴くことのできないユニークな試みでした。客観的に自分のファシリテーションを評価してもらうことはスキルが確実に向上する企画であり、ファシリテーターを初めて務めることが予定されていた私には、とても参考になりました。

旧知の友人との久しぶりの再会もあり、遠い岡山への一人旅ではありましたが、有意義な思い出に残る二日間でした。（森田）

※SPとは・・・

模擬患者：Simulated Patientの略です。SP（エスピー）は、本物の患者と同様の演技ができるように訓練された人のことで、医療関係者の演習やトレーニングで研修者の相手をしめます。また、標準模擬患者：Standardized Patientの意味もあり、試験や評価（OSCEなど）に用いられます。

※OSCEとは・・・

客観的臨床能力試験：Objective Structured Clinical Examinationの略です。OSCE（オスキー）は、日本の医学部、歯学部、薬学部6年制課程の学生が臨床実習に進むために合格しなくてはならない試験の一つです。

※Post-CC OSCEとは・・・

臨床実習後 OSCE：Post-Clinical Clerkship OSCEの略で、臨床実習後に総合的臨床能力を評価する実技試験です。

平成29年度 SMCの活動

月 日	活 動 内 容
平成29年 4月 6日	新規採用者研修会へのSP派遣（静岡県立総合病院）
4月 8日	浜松医科大学医学部（1年）医看合同合宿でのロールプレイに参加
4月16日	平成29年度SMC総会
5月19日	浜松医科大学「医学概論Ⅱ」（医学科2年）へのSP派遣
6月24日	浜松医科大学医学部Post-CCOSCE（医学科6年）へのSP派遣
7月 2日	SMC主催市民公開講演会（アイセル21）
9月 9日	静岡県立大学「CRC特論」への講師およびSP派遣（静岡県立総合病院）
9月14日	救急患者の家族支援を推進する研究へのSP派遣（聖隷浜松病院）
9月23日	VHJ機構臨床研修指導医養成講座へのSP派遣（聖隷浜松病院）
10月14日～15日	MEDC第66回医学教育セミナーとワークショップに参加（岡山）
10月17日	保健所主催の研修会への講師およびSP派遣（静岡県立こども病院）
10月29日	SMC研修会
10月31日	保健所主催の研修会への講師およびSP派遣（静岡赤十字病院）
11月 9日	保健所主催の研修会への講師およびSP派遣（山の上病院）
11月23日	LPC 第7回全国模擬患者学研究大会に参加（東京）
12月 9日	静岡県立大学薬学部OSCE（薬学部4年）へのSP派遣
平成30年 2月17日	浜松医科大学医学部OSCE（医学科4年）へのSP派遣
2月24日	静岡県立大学薬学部新規課題トライアルへのSP派遣
3月15日	医療安全認定臨床コミュニケーション養成実習研修への講師、ファシリテーター、SP派遣（東京大学）
毎月 1回	SMC定例会開催（静岡市中央福祉センター）



S・M・C 第20号発行に寄せて

平成11年に発足した静岡医療コミュニケーション研究会は、その活動をまとめて毎年「機関誌S・M・C」を発行してきました。ここに第20号を発行することができたのも、ご多用の中を寄稿していただいた皆様方の努力の賜物と感謝申し上げます。

創刊号から改めて目を通して見ますと、私たちがどんなに頑張ってきたかがよくわかります。そして、その想いはこれからの活動を続けていくための原動力となることでしょう。社会的役割の異なる仲間がひとつになれる機関紙を、これからも大切にしていきたいと思ひます。

鈴木崇代 上藤美紀代

【連絡先】

静岡医療コミュニケーション研究会

代表 鈴木 崇代

〒420-0961 静岡市葵区北 3-29-27

TEL 054-247-7277

SMC ホームページ URL

<http://www.smc-jp.com/>